# 日本環境教育学会第 21 回大会（沖縄）開催にあたって

大会実行委員長　馬場繁幸（琉球大学）

2010 年 5 月 22 日、23 日の両日、那覇市内の沖縄県男女共同参画センター”てぃるる”を主会場に開催されます日本環境教育学会第 21 回大会（沖縄）にご参加下さいました皆様に、実行委員会を代表して、心からの歓迎の挨拶を述べさせて頂きます。

ご承知のように、琉球大学は、1950 年（昭和 25 年）5 月 22 日、戦火で焼失した首里城跡地に米国軍政府の所管下に英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の 6 学部、1・２年生合わせて 562 人で開学しました。大会初日の 5 月 22 日は、琉球大学開学 60 周年の記念日にあたり、そのような日に、日本環境教育学会第 21 回大会（沖縄）を開催できることを実行委員会一同、大変名誉に思っております。

沖縄大会のテーマは「自然の恵みと豊かさを学び受け継ぐ環境教育とはー生物多様性の島・沖縄からの発信」を掲げておりますが、奇しくも５月 22 日は国際連合が制定した国際デーの「国際生物多様性の日（International Day for Biological Diversity, World Biodiversity Day）」にあたっております。

沖縄は、米軍普天間基地の移転予定地が絶滅危惧種であるジュゴンの生息地であり、埋め立てが行われている中城湾泡瀬干潟には、環境省の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―」等に掲載されている希少動植物が生息しております。また、沖縄の固有種であるヤンバルクイナ、ノグチゲラ等が生息している沖縄島北部のヤンバルをはじめ、生物多様性の島・沖縄では、開発と保全のあり方に関して、どうあるべきか考えなければいけないことをたくさん抱えている現状があります。

戦後 65 年、沖縄の本土復帰 38 年を迎える 2010 年、日本環境教育学会第 21 回大会（沖縄）にご参加頂いた皆様に、学会での発表や議論だけではなく、亜熱帯の森ヤンバルや那覇市内の自然体験、沖縄の今と昔の生活体験、沖縄戦の全体像をつかむことから歴史の継承を考える機会等、地域の NPO がご提供下さるエクスカーションも用意しておりますので、是非、ご参加ください。

そして、ご講演を快くお引き受け頂きました国連開発計画（UNDP）親善大使である紺野美沙子さんの国際的なご講演、地域に根ざし未来を担う子ども達のことを考えての沖縄県環境教育セミナー「児童・生徒が理解しやすい環境教育へ」等、皆様のご厚意と手作りによる沖縄大会です。皆様が大会に参加され、有意義な時間を過ごすとともに、生物の多様性に富んだ沖縄が直面する問題も合わせて学ぶ機会にして頂くことが出来ましたら、実行委員会一同喜びとするところです。

梅雨の時期にあたりますが、大会期間中、沖縄の自然を感じながら学び、楽しい時間をお過ごし下さい。

# 日本環境教育学会　第 21 回大会（沖縄）

## 「自然の恵みと豊かさを学び受け継ぐ環境教育とは

## ～生物多様性の島・沖縄からの発信」

<table>
<tr><td></td><td colspan="8">9　10　11　12　13　14　15　16　17　18　19　20</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5／22<br>（土）</td><td rowspan="3">受付<br>（9:00<br>開始）</td><td rowspan="2">研究発表（口頭）<br>※9:50 スタート</td><td>昼食</td><td rowspan="2">研究発表<br>（口頭）</td><td rowspan="2">総会</td><td rowspan="2">シンポジウム（16:00～）<br>※15:30 開場</td><td rowspan="3">懇親会受付</td><td rowspan="3">懇親会<br>※21:00 終了</td></tr>
<tr><td>若手会</td></tr>
<tr><td colspan="5">ポスター発表（昼休みはコアタイム）</td></tr>
<tr><td colspan="5">環境教育メッセ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5／23<br>（日）</td><td rowspan="3">受付<br>（8:30<br>開始）</td><td rowspan="2">研究発表（口頭）<br>※9:30 スタート</td><td>昼食</td><td rowspan="2">プロジェクト研究</td><td colspan="3" rowspan="3">※コアタイム中は、発表者による解説をきくことができる<br><br>※エクスカーション A･B･C の出発は 23 日夕方<br>エクスカーション D･E は 24 日（月）午前中を予定</td></tr>
<tr><td>自主課題<br>研究</td></tr>
<tr><td colspan="5">ポスター発表（昼休みはコアタイム）</td></tr>
<tr><td colspan="5">環境教育メッセ</td></tr>
</table>

●期間　　2010 年 5 月 22 日（土）～5 月 23 日（日）

●会場　　沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」

●主催　　日本環境教育学会（第 21 回大会実行委員会）

●後援　　環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・沖縄県・沖縄県教育委員会・財団法人海洋博覧会記念公園管理財団・独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター・沖縄大学・沖縄国際大学・沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学・公立大学法人名桜大学・国立大学法人琉球大学・沖縄工業高等専門学校・国立沖縄青少年交流の家・NHK 沖縄放送局・株式会社エフエム沖縄・沖縄テレビ放送株式会社・株式会社ラジオ沖縄・琉球朝日放送株式会社・琉球放送株式会社・株式会社沖縄タイムス社・株式会社琉球新報社（順不同）

■第 21 回大会実行委員会　事務局

〒903-0213　沖縄県西原町千原 1　琉球大学観光産業科学部観光科学科　大島研究室

TEL/FAX.098-895-8211　E-mail：jsoee21@gmail.com

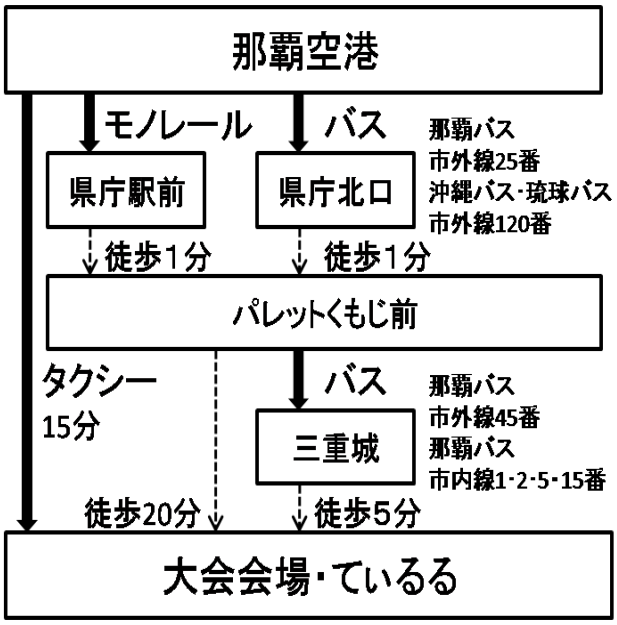
■日本環境教育学会　事務局

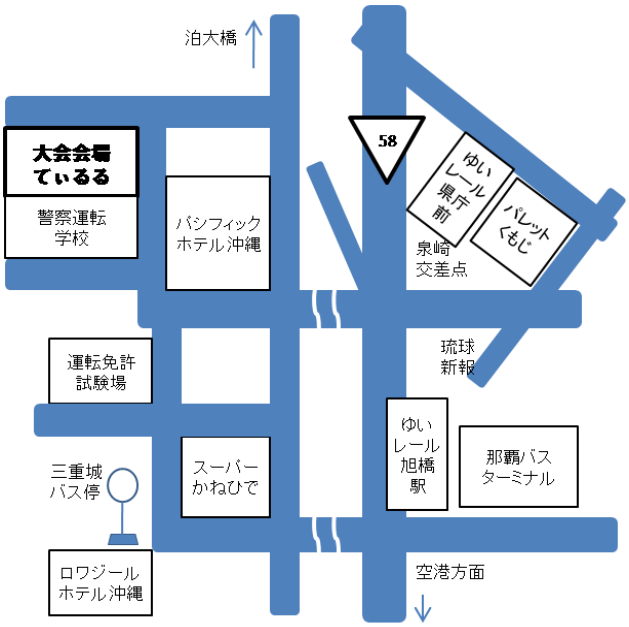
〒171-8588　東京都豊島区目白 1-5-1　学習院大学教職課程　諏訪研究室気付

TEL/FAX：03-3986-0221 内線 6754　E-mail：jsee_education@yahoo.co.jp

【沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」　アクセスマップ】

住所〒900-0036　沖縄県那覇市西３丁目 11 番１号 三重城合同庁舎内
TEL098-866-9090（代） FAX:098-866-9088




【参加者の方々へ】

（１）全般

- 会場内では、大会受付けでお渡しした参加票（名札）を、必ず首から提げるようにしてください。
- 会場内は禁煙です。喫煙は指定場所でのみお願いします。（喫煙場所は、会場に表示されております）
- ゴミを放置しないようにお願いします。

（２）ホール　※総会、公開講演会・シンポジウムの会場

- ホール内は、飲食物の持ち込みは厳禁です。
- ホール内は、雨が降った場合、濡れた傘の持込みは厳禁です。

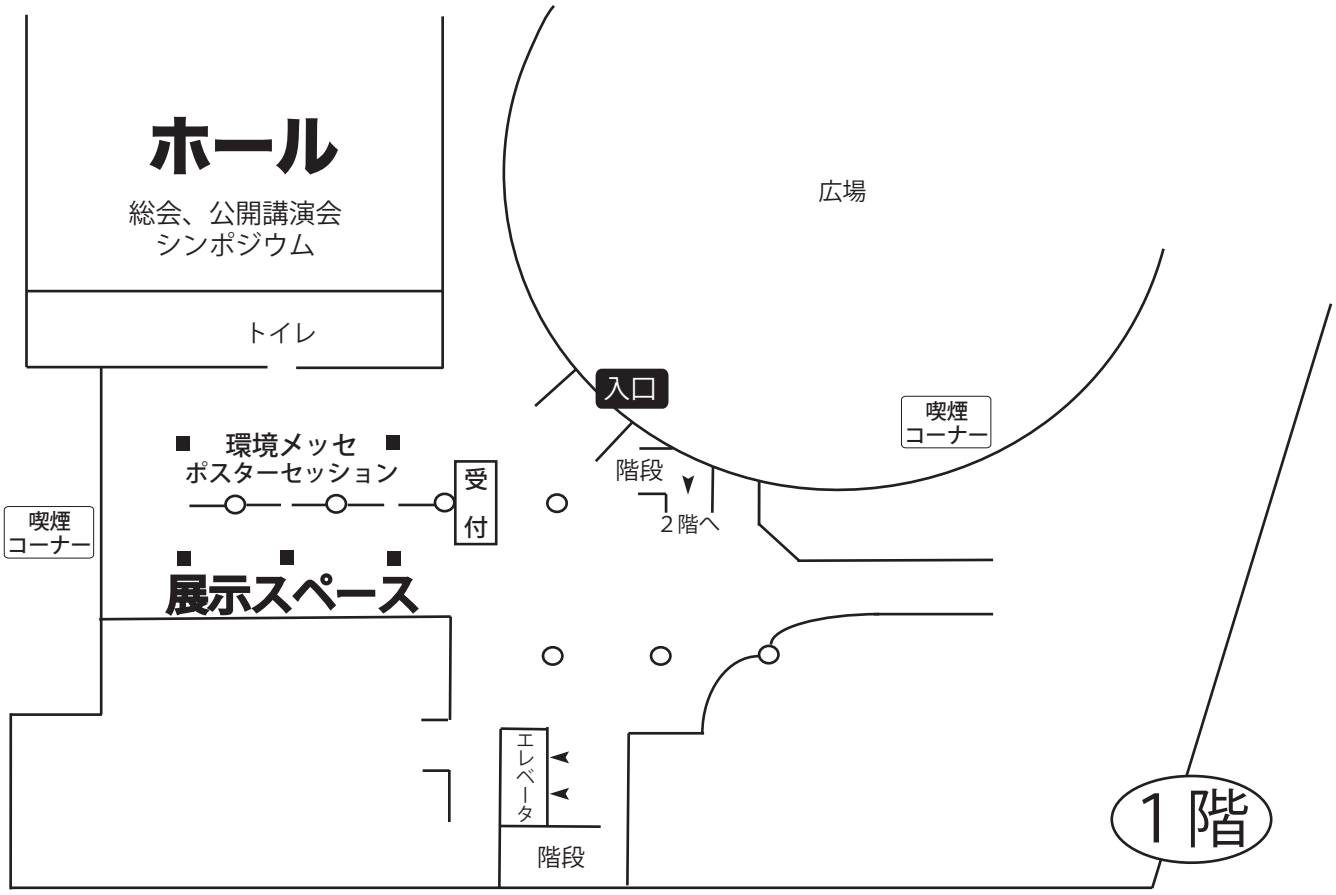
（３）食事・ATM など

- 会場には、「てぃるるカフェ」（12：00～15：00）が営業しています。近くには、「ﾊﾟｼﾌｨｯｸﾎﾃﾙ那覇」内のﾚｽﾄﾗﾝ（徒歩１分）やスーパーマーケット「タウンプラザかねひで」（徒歩５分）がありますので、昼食時にご利用ください。
- 会場内には ATM はありません。近くの ATM は、スーパーマーケット「タウンプラザかねひで」の駐車場内にあります。
- 自動販売機が設置されています。（1 階の階段横と 2 階）

（４）駐車場

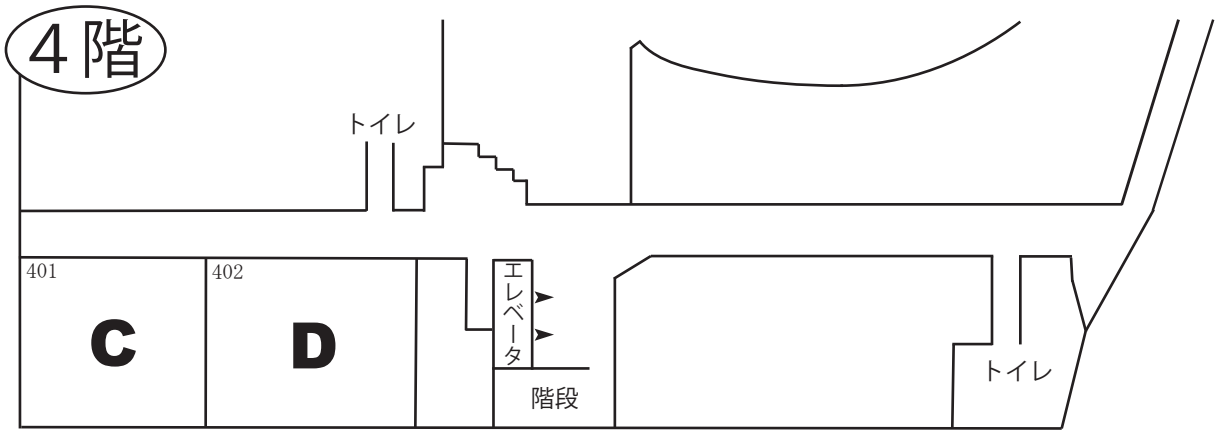
- 会場内には、駐車場がありますが、数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
- メッセ等への機材搬入につきましては、満車の場合は近くの有料駐車場に駐車ください。

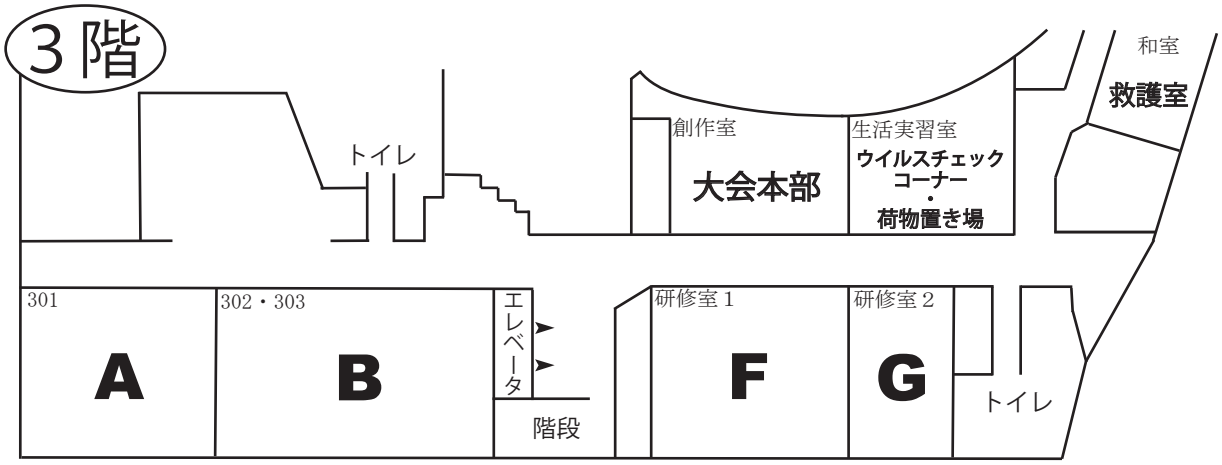
【会場のご案内】

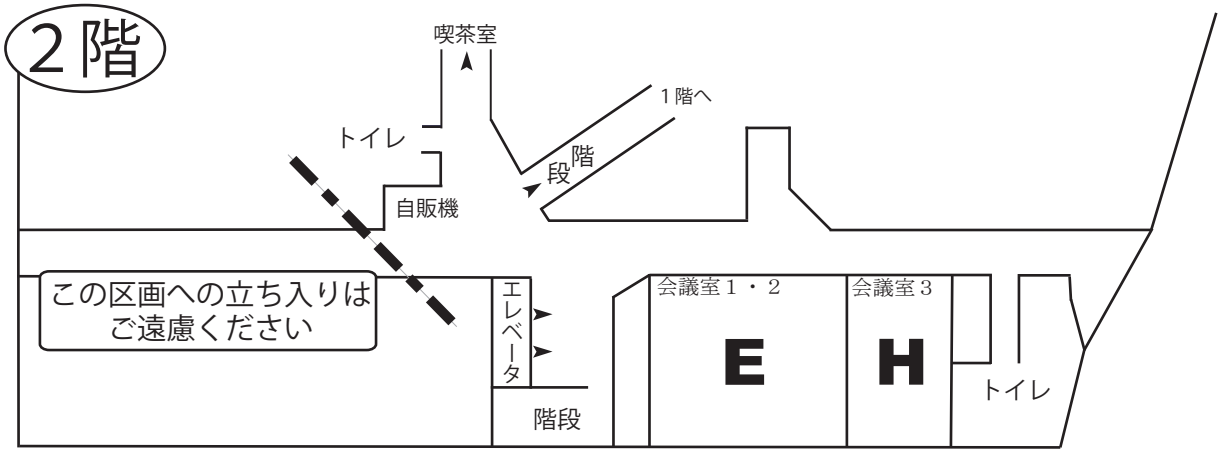



| | | |
|---|---|---|
| 4階 | 22日 | 口頭発表22-C(1～3セッション)会場、環境教育セミナー |
| | 23日 | 口頭発表23-C・D(4～5セッション)会場、プロジェクト研究B-1・B-2 |
| 3階 | 22日 | 大会本部、ウィルスチェックコーナー、口頭発表22-A・B・F・G(1～3セッション)会場、荷物置き場 |
| | 23日 | 大会本部、ウィルスチェックコーナー、口頭発表23-A・B・F・G(4～5セッション)会場、自主研究課題1・4、プロジェクト研究A・B-3、荷物置き場 |
| 2階 | 22日 | 口頭発表22-E(1～3セッション)会場、若手会 |
| | 23日 | 口頭発表22-C(4～5セッション)会場、自主研究課題2・3 |
| 1階 | 22日 | 受付、環境メッセ、ポスターセッション、総会、公開講演会、シンポジウム |
| | 23日 | 受付、環境メッセ、ポスターセッション |

| 会場 | 階 | 22日 | | 23日 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口頭発表 | その他 | 口頭発表 | 自主課題研究<br>プロジェクト研究 | その他 |
| A | 3階 | 22-A 1～3セッション | | 23-A 4～5セッション | プロジェクト研究 A | |
| B | | 22-B 1～3セッション | | 23-B 4～5セッション | 自主課題研究 1 | |
| C | 4階 | 22-C 1～3セッション | | 23-C 4～5セッション | プロジェクト研究 B-1 | |
| D | | 環境教育セミナー | | 23-D 4～5セッション | プロジェクト研究 B-2 | |
| E | 2階 | 22-E 1～3セッション | 若手会 | 23-E 4～5セッション | 自主課題研究 2 | |
| F | 3階 | 22-F 1～3セッション | | 23-F 4～5セッション | プロジェクト研究 B-3 | |
| G | | 22-G 1～3セッション | | 23-G 4～5セッション | 自主課題研究 4 | |
| H | 2階 | | | | 自主課題研究 3 | |
| ホール | 1階 | | 総会・公開講演会<br>シンポジウム | | | |
| 展示<br>スペース | | | 環境メッセ<br>ポスターセッション | | | 環境メッセ<br>ポスターセッション |




手荷物について

今大会ではクロークを設置いたしませんが、大型の荷物を持参される方々のことを考慮し、３階大会本部横のウイルスチェックコーナーに荷物置き場を併設いたします。ご利用はご自由ですが、貴重品等は絶対に置かないようにご注意ください。大会実行委員会では、荷物の管理や監督は行なわず、荷物に対する一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承のうえご利用ください。

【口頭発表　要領】
日時：5 月 22 日（土）9：50～14：20、5 月 23 日（日）9：30～12：00

★発表時間　　1 件 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）
第 1 鈴：10 分
第 2 鈴：12 分（発表終了時間です。直ちに発表を終了してください。）
第 3 鈴：15 分（質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください。）

・発表者は、1 つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機していてください。
・発表者は表題と発表者名を述べてから発表を始めてください。
・質問者は氏名と所属を言ってから発言してください。
・発表者はそれぞれのセッションの質疑応答が終了するまで会場に待機していてください。

★発表機材について
・設置済みの WindowsPC（Power Point2007）を使用してください。また、プリントアウトした原稿を 1 部ご持参ください。
・PC の操作は発表者の責任で行ってください。
・持ち込み PC での発表はご遠慮ください。
・データは USB メモリスティックや CD-R などを用いて当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になります。ご自身の発表があるセッション開始前には必ず会場備え付けの PC のデスクトップ上にある各セッションごとのフォルダにコピーしておいてください。

☆重要☆　USB について
USB メモリを媒介にしたウィルスの被害防止のため、データコピー前に、ご持参していただいた USB メモリに対するウィルスチェックを「てぃるる」３階ウィルスチェックコーナーで行わせていただきます。下表でご自身のウィルスチェック優先タイムを確認し、USB メモリのウィルスチェックを行ってください。その際、チェック時間短縮のため USB メモリ内には発表に使用するデータのみを記録するようお願いいたします。危険なファイルが見つかった場合、データを各部屋の PC にコピーすることは出来ません。この場合、要旨のみ（Power Point 無し）で発表していただくことになります。必ず事前に、最新バージョンのウィルス対策ソフトで USB メモリをチェックし、安全を確認してからご持参ください。

| | ウィルスチェックタイム | 対　象 |
|---|---|---|
| 22日（土） | 8:30～10:00 | 22日の 9:50～11:00 の発表者を優先 |
| | 10:00～12:00 | 22日の 11:00～12:00 の発表者を優先 |
| | 12:00～14:20 | 22日の 13:00～14:20 の発表者を優先 |
| | 14:20～16:00 | 23日の 9:30～11:00 の発表者を優先 |
| 23日（日） | 8:30～10:00 | 23日の 9:30～11:00 の発表者を優先 |
| | 10:00～12:00 | 23日の 11:00～12:00 の発表者を優先 |

※ウィルスチェックコーナーは、「てぃるる」3 階に設置。

★座長の皆様へ
座長（司会者）は複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
討論が特定の発言者に偏らないよう、ご配慮願います。

【ポスター発表　要領】

日時：5 月 22 日（土）9：50～18：30、5 月 23 日（日）9：30～16：00

場所：「てぃるる」1 階 展示スペース

・ポスターの展示スペースは、1 件につき A1 サイズ（縦：841mm×横：591mm）です。
・発表者は学会会員 1 名に限ります。
・発表者は 22 日（土）9：50 までに所定の位置に各自掲示し、23 日（日）16：00 までに取り外してください。
・発表者はコアタイム（5 月 22 日 12：00～13：00／5 月 23 日 12：00～13：30）に質疑応答のため、ポスターの前で待機してください。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
・貼るための道具は実行委員会で用意いたしますので、必ず指定のものを使ってください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。貼り方については、大会スタッフの指示に従ってください。
・撤収されていないポスターは実行委員会で処分いたします。保管はしません。ご了承ください。

【自主課題研究　要領】

日時：5 月 23 日（日）12：00～13：30

・会場設営、進行等の運営は、すべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。
・各会場では研究発表（口頭）が 12：00 まで行われています。準備等が必要であっても、研究発表を妨げることがないように注意してください。

＜会員向け（非公開）＞

【総会】
日時：5 月 22 日（土）14：30～15：30
会場：「てぃるる」１階 ホール

【懇親会】
日時：5 月 22 日（土）（受付 18：30～）19：00～21：00
会場：「パシフィックホテル沖縄」（大会会場「てぃるる」に隣接しています）
・当日参加も可能です。ふるってご参加ください。当日参加の会費は、以下の通りです。
①一般会員：5,500 円　②学生会員：3,500 円　③非会員：5,500 円

【プロジェクト研究】
日時：5 月 23 日（日）13：30～16：00
プロジェクト研究 A　「環境教育の制度化に関する研究」（代表：阿部治）
プロジェクト研究 B-1　「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」（代表：谷口文章）
プロジェクト研究 B-2　「自然保護教育・自然体験学習における生涯学習（１）」（代表：降旗信一）
プロジェクト研究 B-3　「グローバリゼーションのもとでの環境教育・開発教育」（代表：朝岡幸彦）

【第 7 回　若手会員の集い（若手会）】
日時：5月22日（日）12：00～13：00　会場：E
環境教育研究の経験の浅い研究者が悩みや課題を解決するきっかけを得る場として、また、研究仲間との新たな出会い、交流、相互理解を促進する場が 「若手会員の集い」です。今年は、集った者同士で、最近の研究の関心や考えていることなどを率直に話し合うことを予定しております。

＜一般公開＞

【環境教育メッセ】
日時：5 月 22 日（土）9：50～18：30、5 月 23 日（日）9：30～16：00
会場：「てぃるる」1 階 展示スペース

一般公開プログラムとして、大会期間中、「てぃるる」1 階展示スペースにて「環境教育メッセ（環境教育見本市）」を開催します。環境教育に関する商品や資料の紹介、販売のほか、各団体・企業の取り組みの PR の場となっております。
＜出展者＞　新星出版、海邦銀行、沖縄サンゴ株式会社、（財）環境科学センター、
NPO 法人国頭エコツーリズム協会、（財）海洋博覧会記念公園管理財団、
おきなわ環境クラブ、エコビジョン沖縄、立教大学 ESD 研究センター　（順不同）

【公開講演会・シンポジウム】

# 日本環境教育学会 第２１回大会

# 公開講演会・シンポジウム

入場無料
どなたでも入場できます

## 「学校・地域で、子供たちに伝える生物多様性」

2010 International Year of Biodiversity

**基調講演：**

**「国連開発計画（UNDP）親善大使が見た世界の環境と子供たち**
**～今、私たちにできること～」**

※手話通訳がつきます。

**講師：紺野美沙子氏**
女優・UNDP（国連開発計画）親善大使

**シンポジウム：**

パネリスト：安座間安史氏（沖縄県立総合教育センター学校支援総括）
小倉宏樹氏（よみたん自然学校代表）
藤井晴彦氏（沖縄自然環境ファンクラブ代表）

コーディネーター：奥田直久氏（環境省那覇自然環境事務所長）

**日時：５月２２日（土）＜国際生物多様性の日＞**
１６：００～１８：３０
（開場１５：３０）

**会場：那覇市西３丁目**
沖縄県男女共同参画センター
「てぃるる」１階ホール

お問い合わせ：大会実行委員会（シンポジウム担当：奥田）098-858-5824（那覇自然環境事務所）

---

日本環境教育学会 第２１回大会　　会場：沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」

2010年5月22日（土）　研究発表、ポスターセッション、環境メッセ
5月23日（日）　研究発表、ポスターセッション、環境メッセ、プロジェクト研究、自主課題研究、エクスカーション（23・24日）

主催：日本環境教育学会
後援：環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、沖縄県、沖縄県教育委員会、財団法人海洋博覧会記念公園管理財団、独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター、沖縄大学、沖縄国際大学、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学、公立大学法人名桜大学、国立大学法人琉球大学、沖縄工業高等専門学校、沖縄県立芸術大学、国立沖縄青少年交流の家、ＮＨＫ沖縄放送局、株式会社エフエム沖縄、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社ラジオ沖縄、琉球朝日放送株式会社、琉球放送株式会社、株式会社沖縄タイムス社、株式会社琉球新報社（順不同）

ーこちらの学会全体への参加は有料（一般6,000円）ですー

【同時開催・環境教育セミナー】

# 環境教育セミナー
# 児童・生徒が理解しやすい環境教育へ

日本環境教育学会第21回沖縄大会では、沖縄県内で環境教育に関心のある方々に、セミナーを開催します。県内外で先進的に環境教育に取り組んでいる現場の先生方の実践や課題紹介をはじめ、全国から参加される教育関係者との意見交換や交流を通じ、環境教育への認識を深め、今後のよりよい教育活動につなげる機会にしたいと思います。

日　時：　2010年5月22日（土）10:00～15:00

対　象：　沖縄県内の教職員・教育関係者、沖縄自治体職員
沖縄県内の環境教育関連のNPO・NGOおよび市民団体関係者
県内外からの参加希望者も受け付けます

定　員：　50名

場　所：　沖縄県自治研修所４０２号室（沖縄県男女共同参画センターてぃるる内）
〒900-0036 沖縄県那覇市西3丁目11番1号

申込み：　当日会場入り口にて　（事前予約は必要ありません）

第１部<10:00～12:00>

講　演「環境教育がめざすもの」　阿部治（日本環境教育学会 会長）

実践報告　「沖縄の自然を生かした環境教育」

沖縄県内の報告者　山﨑仁也（沖縄県立那覇高校）
城間篤（沖縄県自然保護課）
大塚暁子（沖縄県立大平特別支援学校）

意見交換　コーディネーター：佐々木健志（琉球大学風樹館）

第２部 <13:00～15:00>

実践報告　「自然型環境教育以外の環境教育の分野。外部団体との連携や協働の取組み」

沖縄県外からの報告者　本庄眞（奈良県明日香小学校）
原賀いずみ（北九州インタープリテーション研究会）
増田直弘（㈶キープ協会）

沖縄県内からの報告者　真境名勝（沖縄県立南部工業高校）
張本文昭（沖縄キリスト教短期大学）
西原とも子（沖縄県立普天間高校）

意見交換　コーディネーター：大島順子（琉球大学観光産業科学部）

問い合わせ先：
日本環境教育学会沖縄大会実行委員会環境教育セミナー担当 佐々木健志（琉球大学風樹館　TEL 098-895-8841）

★環境教育学会沖縄大会への特別参加
5月22日（土）23日（日）の2日間、第21回日本環境教育学会沖縄大会が同施設内の男女共同参画センターで開催されており、22日（土）16:00～18:30にはどなたでも参加できる講演会および公開シンポジウムが行なわれます。当セミナー参加の方には特別参加票を配布しますので、全国から集まる最新の研究に触れていただければと考えております。あわせてのご参加をおすすめします。

主催：日本環境教育学会
後援：沖縄県・沖縄県教育委員会（予定）

【エクスカーション】

日程：5 月 23 日（日）～5 月 24 日（月）

＜宿泊＞

A コース【北部】

５月 23 日～24 日（参加費 16,000 円＝1 泊３食付き：最少催行人員 10 名：定員 20 名）
プログラム「わった一島自慢は、やんばる型環境教育～生物多様性に富むやんばるの森体験」
沖縄島北部に拡がる亜熱帯の照葉樹林“イタジイの森”を訪れ、国頭村環境教育センター「やんばる学びの森」のプログラム体験。23 日夜は、地元ＮＰＯとのディスカッションを通してやんばるの森の現状や課題について理解する機会を提供する。
集合：てぃるる（23 日 16:00 発）／解散：那覇空港（24 日 17:30 着）
連絡先：やんばる学びの森・久高（0980－41－7979　masahiro-k@kuta-okinawa.org）
オプションコース有り（やんばるの星空観察会と亜熱帯の森ジャングルカヌーのプログラム実施予定）
日程は 25 日までの 2 泊 3 日／定員：8 名・最少催行人員：5 名／オプション参加者は A コースの費用に加えて 13,800 円を現地でお支払いいただきます。

B コース【南部】

５月 23 日～24 日（参加費 5,000 円＝１泊２食付き：最少催行人員 10 名：定員 20 名）
プログラム「沖縄島南部宿泊体験―沖縄のくらしの今と昔をたずねて」
学校 NPO 珊瑚舎スコーレの循環型社会復元モデル施設「がんまり」に宿泊。かまどでの炊飯体験、交流会、三線の演奏会など。翌朝はバスで南部の農村や史跡をめぐる。
集合：てぃるる（23 日 16:00 発）／解散：那覇空港（24 日正午着）
連絡先：沖縄大学・盛口（098－832－3240　kamage@okinawa-u.ac.jp）

＜日帰り＞

Ｃコース【那覇周辺】

５月 23 日 18：30～20：30（参加費 1,000 円：最少催行人員５名：定員 15 名）
プログラム「琉球石灰岩地の森の探索　夜の部」
那覇市内末吉公園の森のナイトウォッチング（ホタルなど夜の生き物の観察）
集合・解散：那覇市立森の家みんみん　ゆいレール儀保駅から徒歩 5 分
連絡先：那覇市立森の家みんみん（098-882-3195）

Ｄコース【那覇周辺】

５月 24 日 9：00～12：00（参加費 1,000 円：最少催行人員５名：定員 15 名）
プログラム「琉球石灰岩地の森の探索　午前の部」
（１）那覇市内末吉公園の森の自然散策
（２）集合・解散：那覇市立森の家みんみん　ゆいレール儀保駅から徒歩 5 分
（３）連絡先：那覇市立森の家みんみん（098-882-3195）

Ｅコース【平和学習】

５月 24 日 9:00～13:30（参加費 3,000 円：最少催行人員 15 名：定員 20 名）
プログラム「大学生と一緒に考える戦争と平和」
（１）「琉球大学学生平和ガイドの会」によるアクティビティつきガイド。ガマ体験・平和の礎・沖縄県平和祈念資料館見学など。
（２）集合：県庁前広場(9:00 発)／解散：那覇空港または県庁前広場（13:30 着）
（３）連絡先：Ｅコース担当・川島（070-5028-2221）

## 【口頭発表：第１セッション】5 月 22 日（土）９：５０～１０：５０

| | | 9:50 | 10:05 | 10:20 | 10:35 |
|---|---|---|---|---|---|
| A会場 | 学校教育実践 | **22-A-1 環境教育での緑のカーテン活用術　ブームで終わらせないために**<br>○西澤浩美・吉川春奈（京都府地球温暖化防止活動推進センター） | **22-A-2　身近な自然を活かした環境学習による児童の意識変化とその教育効果についての研究**<br>下司雅美（明治学園小学校） | **22-A-3 自然体験学習を基盤とした小学校環境教育の再考ーNPO・行政・学校連携による自然監査圧からまちづくりへの学習を通してー**<br>○米川久子（立教大学大学院コミュニケーション研究科修了生） | 総合討論 |
| B会場 | 幼児・保育者養成 | **22-B-1 幼児向け環境教育「森のムッレ教室」の実践**<br>○遠藤弘子・濱田ひかる（文京学院大学学士課程）森下英美子・中山智晴（文京学院大学環境教育研究センター） | **22-B-2 飼育・栽培活動を通した保育者養成の試みと課題**<br>山根一晃（鎌倉女子大学短期大学部） | **22-B-3 保育者養成課程における自然体験活動～身じかな自然とのかかわりを通して～**<br>浦田憲二（東京成徳大学） | 総合討論 |
| C会場 | 大学教育 | **22-C-1 長野大学「森の生態系サービスの活用を学ぶ環境教育」の評価実績とその成果**<br>○高橋一秋・高橋大輔・三上光一・安藤裕教・佐藤哲（長野大学環境ツーリズム学部・教育 GP「森の生態系ｻｰﾋﾞｽの活用を学ぶ環境教育） | **22-C-2 長野大学「森の生態系サービスの活用を学ぶ環境教育」における ICT の活用理念とそのプログラム展開**<br>○三上光一・高橋一秋・高橋大輔・安藤裕教・佐藤哲（長野大学環境ツーリズム学部・教育 GP「森の生態系ｻｰﾋﾞｽの活用を学ぶ環境教育） | **22-C-3 特色ＧＰ・現代ＧＰにおける環境教育の取組状況分析**<br>○森本高司（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング（株）・立教大学 ESD 研究センター）・阿部治（立教大学大学院） | 総合討論 |
| D会場 | | 環境教育教員セミナー「児童・生徒が理解しやすい環境教育へ」第一部:10:00～12:00 | | | |
| E会場 | 里山保全・他 | **22-E-1 里山保全におけるコミュニティと環境教育に関する考察**<br>孟蘭（東京農工大学） | **22-E-2 近畿大学奈良キャンパスにおける里山修復活動を通じた環境教育の実践**<br>奥村博司・細谷和海・櫻谷保之・池上甲一（近畿大学農学部） | **22-E-3 生物の多様性から～生命の誕生を地球に求めて～**<br>○熊澤峻子（日本環境教育学会）・熊澤貴子（WWFJ） | 総合討論 |
| F会場 | エネルギー・他 | **22-F-1 小学 3 年生理科における「エネルギーパーツ」の実践～教科学習における「ｴﾈﾙｷﾞｰ環境教育」実証的研究（その 5）～**<br>○中村俊哉（川崎市立虹ヶ丘小学校）・他 | **23-F-2 琉球大学における環境マネジメントシステム（EA21）の取組み**<br>伊波美智子（琉球大学） | **22-F-3 沖永良部島におけるエネルギー利用とエネルギー教育**<br>○萩原豪（鹿児島大学）・元木理寿（常盤大学） | 総合討論 |
| G会場 | 国際比較・海外事例 | **22-G-1 焼畑についてインドネシアでの授業実践**<br>○竹部美紀・喜多雅一（岡山大学大学院） | **22-G-2 海洋政策におけるパートナーシップおよび教育の役割に関する日米比較研究：両国の政策的枠組みに関する考察**<br>○太田絵里（海洋政策研究財団） | **22-G-3 英国の PSHE における環境教育の実践**<br>○井元りえ（女子栄養大学） | 総合討論 |

## 【口頭発表：第２セッション】5 月 22 日（土）１１：００～１２：００

| | | 11:00 | 11:15 | 11:30 | 11:45 |
|---|---|---|---|---|---|
| A 会場 | 高校生 | **22-A-4 高校生の環境問題に関する道徳的価値観尺度の作成**<br>○浜 泰一 ・ 斎藤 馨 （東京大学大学院 新領域創成科学研究科） | **22-A-5 武庫川上流部におけるゲンジボタルの調査の取り組み**<br>田井　彰人（兵庫県立篠山産業高等学校丹南校） | **22-A-6 環境教育プログラム実践前後における生徒の意識・行動の変化の比較－長崎県立国見口頭学校における活動より—**<br>○松田香穂里（長崎大学大学院生産科学研究科博士前期課程 1 年）・中村修（長崎大学大学院生産科学研究科） | 総合討論 |
| B 会場 | 学校教育 | **22-B-4 命の教育と環境教育の観点からの生活科教育法改善の試み—教職科目「生活科教育法」における獣医師の動物飼育講義と体験活動の意義—**<br>○宮薗衛（新潟大学教育学部）・宮川保（獣医師・新潟大学教育学部非常勤講師） | **22-B-5 学校教育における教科「環境」の導入をめぐる問題—諸外国と日本における現状と課題—**<br>平田　悦也・加澤　恒雄（広島工業大学） | **22-B-6ESDの観点に立った環境教育の実践的研究**<br>河原富夫（広島県立白木高等学校）・○五島政一（国立教育政策研究所）・岡本弥彦(麻布大学) | 総合討論 |
| C 会場 | 大学・大学院 | **22-C-4 大学生に対する環境家計簿を用いた授業実践**<br>井山慶信（広島国際大学医療経営学科） | **22-C-5 大学生の環境・3R行動と環境教育に関する考察**<br>○浅利美鈴・酒井伸一（京都大学環境保全センター）・山川肇（京都府立大学） | **22-C-6 大学院教育における全学的な T 字型環境人材育成モデル—「茨城大学大学院ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｼﾞ学教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」実践から**<br>○上柿崇英（茨城大学）・田村誠（茨城大学） | 総合討論 |
| D 会場 | | 環境教育教員セミナー「児童・生徒が理解しやすい環境教育へ」第一部:10:00～12:00 | | | |
| E 会場 | 環境保全 | **22-E-4 水質保全を啓発する環境学習 —「水質実験」を事例として—**<br>宮本直樹（茨城県霞ケ浦環境科学センター） | **22-E-5 沖永良部島における水環境と環境教育**<br>○元木理寿（常磐大学）・萩原豪（鹿児島大学） | **22-E-6 ESD の視点を導入した社会科における環境保全学習-リサイクル問題を事例として-**<br>永田 成文（三重大学） | 総合討論 |
| F 会場 | 学習プログラム | **22-F-4 市民向け環境教育プログラム開発への配慮～ヒートアイランド学習を例に～**<br>○陸　斉・浜田 崇（長野県環境保全研究所） | **22-F-5 コモンズとしての公共政策の決定権は誰にある？:正当性の実験的検証と教育を目指した「誰がなぜ？」ゲームの開発**<br>野波　寛（関西学院大学） | **22-F-6 シリアスゲームを用いた環境教育の実践とその評価**<br>○南祐貴（早稲田大学）・塩田真吾（静岡大学）・山内崇裕・永田勝也（早稲田大学）・和田翔太（NPO 早稲田環境教育推進機構）・横田由美子（日本 IBM） | 総合討論 |
| G 会場 | 国際比較・国際協力 | **22-G-4 学校環境教育の内容開発－日本、韓国、アメリカの教科書分析を中心に**<br>○鄭 允貞（東京大学教育学研究科）・趙成和（韓国教員大学） | **22-G-5 中国の学校における環境教育の現状について—地理教科書から見る環境教育—**<br>鄭暁文(新潟大学大学院教育学研究科) | **22-G-6 環境教育分野の JOCV 活動報告書の文章分析に基づく阻害・貢献要因の時系列変化と補完的エージェントの機能・役割に関する考察**<br>○佐藤真久（東京都市大学環境情報学部）・清水恵子 | 総合討論 |

## 【口頭発表：第３セッション】5 月 22 日（土）１３：００～１４：００

| | | 13:00 | 13:15 | 13:30 | 13:45 | 14:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A 会場 | 日常生活・ライフスタイル | **22-A-7 ダンボールコンポストでつなぐ小さな循環いいくらし**<br>平由以子（NPO 法人循環生活研究所） | **22-A-8「交通環境教育」の展望と今後の課題－那覇市における「環境と交通・学習プログラム」の事例を中心に—**<br>前田善弘（ＮＰＯ法人全国鉄道利用者会議） | **22-A-9 文京・食農教育ファームにおける米づくり実践活動の試み**<br>○大江友美・星野麗音（文京学院大学学士課程）・酒井聡一・森下英美子・中山智晴（文京学院大学環境教育研究センター） | 総合討論 | |
| B 会場 | 野外教育活動 | **22-B-7 野外教育活動における学生の態度変容に関する研究**<br>○田中浩之・佐島群巳（帝京短期大学こども教育学科） | **22-B-8 野外教育としての「巨大積木」**<br>森谷昭一（森林インストラクター森谷事務所・函嶺白百合学園） | **22-B-9 ナチュラリストの集団形成に関する研究（2）**<br>高橋正弘（大正大学） | 総合討論 | |
| C 会場 | 地域連帯 | **22-C-7 ふくしまエコ探検隊の活動と環境教育テキストの作成**<br>後藤　忍（福島大学 理工学群 共生システム理工学類） | **22-C-8 環境副読本の課題と可能性～京都市版改訂からの考察～**<br>○谷内口友寛・高月紘（京エコロジーセンター） | **22-C-9 環境教育で生きる力と学力を向上させる ～日本初の環境教育専門指導員を配置した奄美龍郷町における実践例～**<br>前園泰徳（奄美大島龍郷町教育委員会・東邦大学理学部） | 総合討論 | |
| D 会場 | | 環境教育教員セミナー「児童・生徒が理解しやすい環境教育へ」第二部:13:00～15:00 | | | | |
| E 会場 | 生物・科学教育・他 | **22-E-7 ニホンミツバチを題材とした環境教育の可能性**<br>溝田浩二（宮城教育大学・環境教育実践研究センター） | **22-E-8 河川の物理環境特性と生物の関係を学ぶプログラムの実践**<br>真田誠至（独立行政法人土木研究所自然共生研究センター） | **22-E-9 市民参加型テクノロジー・アセスメントの動向:カリキュラム開発のための予備的考察**<br>福井智紀（麻布大学生命・環境科学部） | **22-E-10 生物多様性条約事務局小冊子のリメディアル教育への活用**<br>菅野 憲一（近畿大学 産業理工学部） | 総合討論 |
| F 会場 | 学習プログラム | **22-F-7 デジタル環境紙芝居の製作と教育効果について**<br>鈴木良孝（栃木県立宇都宮工業高等学校） | **22-F-8 中学校におけるESD視聴覚教材の開発**<br>○西村英男（日本大学三島高等学校・立教大学ＥＳＤ研究センター）・阿部治（立教大学大学院） | **22-F-9 パッケージドプログラムにおける「ローカルな知」の可能性と課題～ネイチャーゲームを対象に～**<br>温山陽介（東京農工大学大学院） | **22-F-10 幼稚園児とその家族を対象とした環境家計簿“えーこシート”の開発**<br>○三谷直子（徳島大学 非常勤講師 工学部建設工学科）・上月康則（徳島大学大学院 教授）山中亮一（徳島大学大学院講師）・岩見宏康（徳島市 eco リーダー会代表） | 総合討論 |
| G 会場 | エコフェミニズム・エンパワー・他 | **22-G-7 女性のエンパワーメントとエコロジー運動の関係性 奄美大島の女性運動を事例に**<br>南郷展（東京農工大学大学院） | **22-G-8 ネパールの内発的発展と環境教育の役割**<br>○シュレスタ・マニタ・松葉口玲子（横浜国立大学） | **22-G-9 インド参加型灌漑プロジェクトにおけるエンパワーメント・プロセスモデルと変容を促す教育としての ESD**<br>○吉川まみ(川崎市環境技術情報センター)・佐藤真久（東京都市大学） | **22-G-10 大学の二酸化炭素排出量等のベンチマーキング研究**<br>○酒井伸一、浅利美鈴、藤本成彬（京都大学環境保全センター） | 総合討論 |

**【口頭発表：第４セッション】5 月 23 日（日）９：３０～１０：４５　　その１**

| | | 9:30 | 9:45 | 10:00 | 10:15 | 10:30 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A会場 | 学校教育実践・施設 | **23-A-1 学校の自然環境としてビオトープのはたす役割**<br><br>圓谷秀雄（東京女子体育大学・短期大学） | **23-A-2 環境教育出前授業が大学生と学校ビオトープに与える影響**<br><br>米本桂子（近畿大学管理部エクステリアデザイナー） | **23-A-3 中学生・高校生を対象としたビオトープ計画講座の実践**<br><br>○小島 淳一・森田 真木（文京学院大学学士課程）・酒井 聡一・森下 英美子・中山 智晴（文京学院大学環境教育研究センター） | **23-A-4 ビオトープを利用したハンディキャップを持つ子供たちへの自然体験学習の試み**<br><br>○佐々木健志（琉球大学資料館）・大塚暁子（沖縄県立大平特別支援学校） | 総合討論 |
| B会場 | 環境教育思想 | **23-B-1 自然に対する倫理の拡大―アルド・レオポルドの「土地倫理」を学ぶこと―**<br><br>岩崎茜（一橋大学大学院社会学研究科） | **23-B-2 環境教育の学問イメージに関する検討―なぜ環境教育が専門であると表明する人が多くないのか―**<br><br>村松 陸雄（武蔵野大学環境学部） | **23-B-3ESD とゴールデン・トライアングル**<br><br>新田和弘（近畿大学） | **23-B-4 発生的環境教育論－成人教育としての環境教育へ向けて（Ⅶ）－**<br><br>大島英樹（立正大学法学部） | 総合討論 |
| C会場 | 地域・住民参加 | **23-C-1 地域行事開催における環境配慮ガイドラインの役割と取り組みの現状**<br><br>小田淳子・辻拓也（吉備国際大学国際環境経営学部） | **23-C-2 北杜市における環境と健康の地域づくりの現状と課題**<br><br>増田直広（財団法人キープ協会） | **23-C-3 みんなで見守る白神山地　～住民参加で進めるブナ林モニタリング 11 年の歩み～**<br><br>○蒔田明史（秋田県立大）・石橋史朗・檜垣育子・山崎麻里(環境省世界遺産セ)・小関孝一・畑雅之・石澤幸人(ウォッチング青森)・松井淳(奈良教育大)・神林友広(深浦町)・中静透(東北大)・齋藤宗勝(盛岡大) | **23-C-4 子どもを取り巻く環境が子どもの遊びに与える影響について**<br><br>○木村美智子（茨城大学）・木谷　忍（東北大学） | 総合討論 |
| D会場 | 生物多様性・他 | **23-D-1 生物多様性の保全・再生を目的とした大学生の環境教育実践とその情報共有手法の開発**<br><br>○小堀洋美・奥間亮・上野直樹・野村迅史（東京都市大学環境情報学研究科） | **23-D-2 生態系モニタリングを組み込んだ環境教育プログラムの開発**<br><br>○大石康彦・井上真理子・井上大成・伊東宏樹・田村典子・岩本宏二郎（森林総研多摩）長谷川元洋（森林総研木曽）・小林慶子・松本純子・染谷恭平・羽澄ゆりこ（多摩市立連光寺小学校）・冨田恭正・荒井寛（東京動物園協会） | **23-D-3 生物多様性と地域環境教育－世界自然遺産（候補）小笠原諸島を事例に－**<br><br>生方秀紀（北海道教育大学釧路校） | **23-D-4 新学習指導要領における水文化教育の可能性―水文化教育の構想と実践（その９）－**<br><br>立花禎唯（高槻市立大冠小学校） | 総合討論 |

**【口頭発表：第４セッション】5 月 23 日（日）９：３０～１０：４５　　その２**

| | | 9:30 | 9:45 | 10:00 | 10:15 | 10:30 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| E 会場 | 環境マネジメント・他 | **23-E-1 ISO14001による環境教育**<br>荘司孝志（東京都立つばさ総合高校） | **23-E-2 小学校における「電力見える化」授業の開発・実践とその評価**<br>○山内崇裕・小野田弘・永田勝也（早稲田大学）・塩田真吾（静岡大学）・土岐三輪（早稲田環境研究所）・和田翔太（NPO 早稲田環境教育推進機構） | **23-E-3 環境教育指導者 3 年目の壁―環境教育は「不安の教育」である**<br>原田　泰（産総研） | **23-E-4 日本環境教育学会 第 3 の 10 年紀**<br>原子栄一郎（東京学芸大学） | 総合討論 |
| F 会場 | 学習プログラム・教材開発・評価 | **23-F-1 環境学習からみたサトウキビのもつ教材性**<br>岡田正三（愛知教育大学大学院） | **23-F-2 消費者環境教育における食育－ゲーム開発と教育実践－**<br>根本泉（福島大学大学院共生システム理工学研究科　環境計画研究室）・後藤忍（福島大学理工学群 共生システム理工学類 環境計画研究室） | **23-F-3 共分散構造分析を用いた環境教育評価指標の開発と検討**<br>○松本和晃（立命館大学大学院）・清水聡行・神子直之・山田淳（立命館大学） | **23-F-4 野生動物と人間との軋轢を解消するための環境教育プログラムの評価-長野県下蔦木集落におけるサル柿大学の事例研究-**<br>○桜井良・ジャコブソン、K、スーザン（フロリダ大学大学院自然資源・環境学部野生動物生態・保護学科） | 総合討論 |
| G 会場 | 観光・ツアー | **23-G-1 ESD の観点からみた地域観光資源の開発-島の海岸景観美の構成と形成の考察から-**<br>藤岡達也（上越教育大学） | **23-G-2 エコツアー型修学旅行の構築に関する研究－三重県鳥羽市「海島遊民くらぶ」を事例にして―-**<br>○寺本　潔（玉川大学）・小林季代（春日井市立鳥居松小学校） | **23-G-3 「観光ボランティア」の学習から ESD を考える**<br>本庄眞（奈良県明日香小学校） | **23-G-4 観光の持つ多様な側面を活かした教育と ESD-**<br>大島順子（琉球大学観光産業科学部） | 総合討論 |

## 【口頭発表：第５セッション】5 月 23 日（日）１１：００～１２：００

| | | 11:00 | 11:15 | 11:30 | 11:45 |
|---|---|---|---|---|---|
| A会場 | その他 | **23-A-5 環境教育現場でのリスクコミュニケーション活動の実践による鳥インフルエンザへの不安の除去**<br>○小泉伸夫（農研機構・動物衛生研究所）・岡本拓司・山科直子・草深美奈子・関谷翔・熊倉直祐（東京大学） | **23-A-6 災害からの復興感と地域見守り支援ネットワーク**<br>田中純一（金沢大学人間社会研究域） | **23-A-7 小学校における下水道分野の学習の推進**<br>寺木秀一（東洋大学文学部） | 総合討論 |
| B会場 | その他 | **23-B-5 MDGs（ミレニアム開発目標）をめざす環境教育の検討**<br>岩本 泰（東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程） | **23-B-6 環境問題理解に向けた思考力教育方法例の提案**<br>楠美順理（中京大学国際教養学部） | **23-B-7 ナショナルトラスト活動における拡張的学習**<br>淀野順子（拓殖大学北海道短期大学） | 総合討論 |
| C会場 | 地域連帯 | **23-C-5 市民向け環境教育事業の実践と分析**<br>菊沢正裕（福井県立大学） | **23-C-6 地域社会から見た大学が行う「子ども樹木博士」**<br>○杉浦克明・吉岡拓如・井上公基（日大生物資源） | **23-C-7「都市」と「地域」の連携による山間地域での環境教育実践について**<br>小野瀬剛志（仙台医療福祉専門学校） | 総合討論 |
| D会場 | 生物多様性 | **23-D-5 ラオスにおける村落住民協働による植生調査の実践－生物多様性をめぐる知恵・技術の実態把握に向けて－**<br>○矢ヶ崎朋樹（地球環境戦略研究機関国際生態学センター）・百村帝彦（地球環境戦略研究機関）・LATTANAVONGKOT Bounchanh（ラオス・ルアンプラバン県農林事務所） | **23-D-6 生物多様性を伝えるインタープリテーション～2010 年中日韓生態道徳教育教員研修会に参加して**<br>○原賀いずみ・加藤久美子・大橋直子（北九州インタープリテーション研究会） | **23-D-7 動物園を活用した環境学習　生きている動物を観察し、市民が広げる可能性の提案**<br>松本朱実（動物教材研究所 pocket） | 総合討論 |
| E会場 | 森林教育・他 | **23-E-5 森林教育を通じたボランティア（奉仕）教育の展開－青梅総合高校の三宅島緑化活動の実践を通じて－**<br>井上真理子・大石康彦（森林総研多摩） | **23-E-6 和算による樹高計測の教材化**<br>竹内和俊（長野県塩尻市立宗賀小学校） | **23-E-7 シティズンシップ教育としての環境**<br>水山光春（京都教育大学） | 総合討論 |
| F会場 | 平和・他 | **23-F-5 環境教育ライブラリーえるふぇの運用と課題**<br>桔梗佑子（宮城教育大学環境教育実践研究センター） | **23-F-6 沖縄の平和ガイドにみる平和の学び場づくり**<br>川島啓一（埼玉県立朝霞高等学校） | **23-F-7 地雷問題を通して国際平和への関心を高める学習構想と実践**<br>植松智子・遠藤修一（滋賀大学教育学部） | 総合討論 |
| G会場 | 自然地理 | **23-G-5 GPS を使った恩納村の干潟しらべ 「巨大絵地図づくりプロジェクト」**<br>藤井晴彦（沖縄自然環境ファンクラブ） | **23-G-6 地質多様性の視点を取り入れた環境教育（1）～つなぐ作業が織りなす文理融合型プログラム～**<br>矢野正孝（北九州高専）・他 | **23-G-7 ジオツアーの環境教育効果―その効果を生むジオツアーの特性について―**<br>野井英明（北九州市立大学）・太田泰弘（北九州市立いのちのたび博物館）・梅崎惠司（北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化在調査室） | 総合討論 |

## 【ポスター発表】会場：「てぃるる」１階展示スペース

**コアタイム：5 月 22 日（土）12：00～13：00・5 月 23 日（日）12：00～13：30**

ポスター　01　**間伐材の利活用による森林再生のための新しい森林環境教育プログラムの開発**
○高桑 進（京都女子大学）

ポスター　02　**学生の幼少期の自然体験　―身近な自然物とのかかわり方から考える―**
○石井 智子（東京都市大学）

ポスター　03　**教養系女子短期大学生の環境意識アンケート調査**
○阿部 俊一（名古屋短期大学）

ポスター　04　**都会における人とタヌキの共存の考察**
○李　厚槿・阿部 治（立教大学）

ポスター　05　**市民・行政・企業との協働による環境教育**
○松村 佳子（奈良教育大学）・黒飛 啓（NPO 法人宙塾）

ポスター　06　**日本と韓国の中学校の環境教育について―環境倫理教育を中心として―**
○加藤 美由紀（日本女子大学）・鄭 允貞（東京大学）

ポスター　07　**校庭での調査活動による大阪市内小学校の野草の発生状況に関する研究**
○田 明男（大阪市立姫里小学校）

ポスター　08　**栄養士養成課程における食農教育の可能性（３）**
○諸岡 直（佐賀女子短期大学）

ポスター　09　**身近な水溶液の電気伝導度に関するインドネシアでの授業実践**
○豊柴 まどか・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　10　**水蒸気蒸留とリモネンによるプラスチックの分別の教材研究と授業実践**
○高原 遼・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　11　**「森はともだち」の授業実践**
○三好 美恵（兵庫教育大学連合大学院）・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　12　**環境学習ソフト『うちエコキッズ』の開発**
○土川 忠浩・熊谷 哲（兵庫県立大学）・松尾 雄介（(財) 地球環境戦略研究機関）・小島 盛利（(株) 日本エコシステム）

ポスター　13　**途上国の教師育成研修へ環境教育導入の試み―サモアにおける現職教師研修の事例から―**
○大森 幸子（上智大学）

ポスター　14　**海洋微生物による海水の浄化の教材研究と授業実践**
○岡村 麻以・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　15　**チンダル現象を用いた身近なコロイド溶液の判別と授業実践**
○岩崎 恭子・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　16　**保育者養成課程における環境・自然に関する実践教育**
○橋本 みのり・吉川 研二（白梅学園短期大学）

ポスター　17　**水草の根圏における自浄作用とその授業実践**
○嶋崎 希恵・八木 俊太・喜多 雅一（岡山大学）

ポスター　18　**企業のＣＳＲ活動と連携した実践系授業の展開（１）－ＣＳＲと大学院授業との連携－**

〇藤野 裕弘・内田 晴久（東海大学大）・松澤 宏・小林 一夫（株式会社東芝横浜事務所）

ポスター　19　**企業のＣＳＲ活動と連携した実践授業の展開（２）－ラグーンの活用－**

〇濱田 康正・松村 和音・中田 啓介・北野 忠・藤野 裕弘（東海大学）・海藤 智文・松澤 宏（株式会社東芝横浜事務所）

ポスター　20　**企業のＣＳＲ活動と連携した実践系授業の展開（３）－ＩＳＯ１４００１の活用－**

〇鈴木 健一郎・藤野 裕弘・（東海大学）・坂本 雄一・松澤 宏（株式会社東芝横浜事務所）

ポスター　21　**土壌微生物の教材化～土壌微生物を使った環境学習プログラムの作成～**

〇湯本 勝洋（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

## 【自主課題研究】

**5 月 23 日（日）12：00～13：30**

自主課題研究１　　会場：Ｂ

**園外散歩における環境の気づきを求めて**

代表：石坂 孝喜（大塚保育園）

自主課題研究２　　会場：Ｅ

**内発的 ESD の研究と課題**

代表：岩佐 礼子

自主課題研究３　　会場：Ｈ

**食育の力（チカラ）を問う―「食育」・「農育」・「教育」の三育から現代的コミュニケーションの課題と可能性を考える―**

代表：野村 卓（鹿児島大学）

自主課題研究４　　会場：Ｇ

**野生生物の自然な姿を観察させるプログラム作り**

代表：小島 望（川口短期大学）

## 【プロジェクト研究】

**5 月 23 日（日）13：30～16：30**

プロジェクト研究Ａ　会場：Ａ
**「環境教育の制度化に関する研究」**
代表：阿部治（会長・立教大学 ESD 研究ｾﾝﾀｰ）

プロジェクト研究Ｂ－１　会場：Ｃ
**「アジア・エリアにおける『持続可能な未来』のための環境教育とネットワークの構築」**
代表：谷口文章（甲南大学）

プロジェクト研究Ｂ－３　会場：Ｄ
**自然保護教育･自然体験学習における生涯学習（1）**
代表：降旗信一（東京農工大）

プロジェクト研究Ｂ－４　会場：Ｆ
**グローバリゼーションのもとでの環境教育・開発教育**
代表：朝岡幸彦（東京農工大）